

(曾於郡志布志町帖字野首)

**位置と環境**

本遺跡は町の中心部から北東に約2km離れた前川上流にかかる野首橋東側に位置し、小丘陵の鞍部に立地している。遺跡地は標高約20mの丘陵一帯である。

**調査の経緯**

発掘調査は特殊農地保全整備事業（別府地区）に伴い、大隅耕地事務所より調査依頼を受け、志布志町教育委員会が調査主体となり、第一次調査（昭和52年）と第二次調査（昭和53年）と2年次にわたり実施された。

**遺構と遺物**

調査の結果、縄文時代前期・中期・後期・晩期、歴史時代の遺物が発見された。

本遺跡の遺物は、縄文時代前期・中期の時期のものが主体を占め、縄文時代後期・晩期の土器は、岩崎式・指宿式・市来式・黒川式等の土器も少量出土している。

歴史時代の遺物は、土師器・須恵器・蔵骨器・ふいごの羽口・鉄滓等が出土した。

縄文時代前期・中期の遺物には、轟II式（第2図1～3）・轟III式（第3図4～7）・曾畑式（第3図8～10）・深浦式（第3図11～14）・春日式（第3図15～17）等の土器、石鏃（第3図18・19）・石匙（第3図20・21）・剥片石器・石斧・石皿・磨石・凹石・敲石・有孔石製品（第3図22・23）等の石器が出土している。

特に注目されたものは、縄文時代の前期・中期の遺物が、南九州の在来系土器に瀬戸内地方の土器の特徴的な文様を取り入れたものが出土したことである。



第1図 野久尾遺跡の位置

瀬戸内地方の土器の特徴的な文様を取り入れたものには、地文として縄文が施される春日式土器（第3図24）、口縁部内面に文様を施した津雲系土器（第3図25）等が出土している。

南九州の在来系土器である春日式土器は、ひとつの特徴として地文に貝殻条痕を施すことである。しかし、本遺跡出土の春日式土器には貝殻条痕があまり認められず、縄文が施されている。

このようなことから、瀬戸内地方の船元式土器（かたい繊維の縄文を地文として施す）との関係が推測される。また、他地域のほぼ同時期の遺跡でも春日式土器が船元式土器と共伴しているようである。

**特徴**

縄文時代後期以前に瀬戸内の土器文化が一時期（前期末～中期初頭）伝播したことを示している。

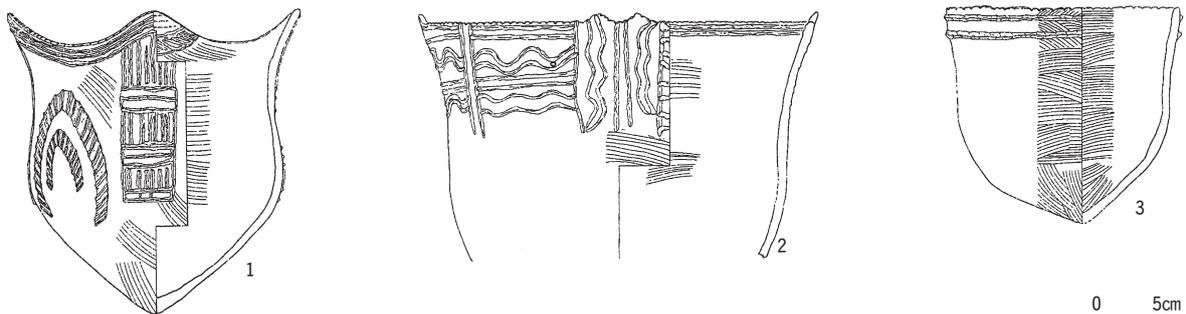
**資料の所在**

出土遺物は、志布志町埋蔵文化財収蔵整理作業室に保管されている。（酒匂義明氏所有。）

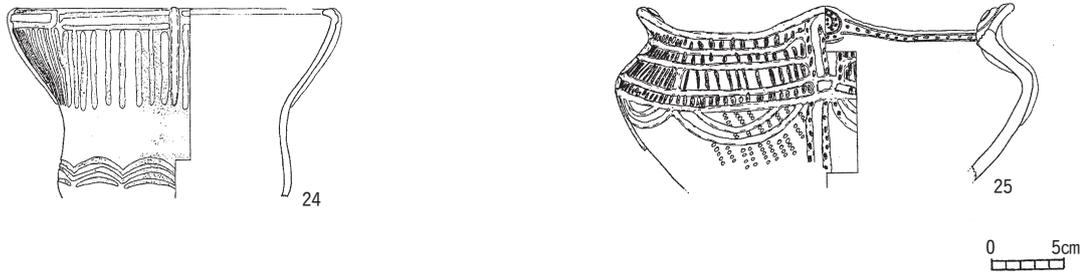
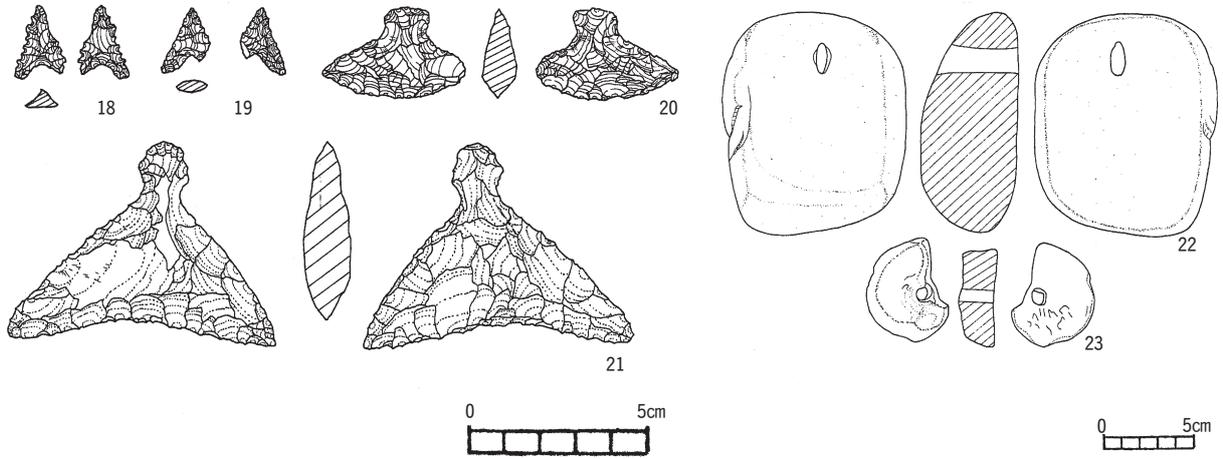
**参考文献**

志布志町教育委員会1979「野久尾遺跡」『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書』2

(小村美義)



第2図 出土遺物



第3図 出土遺物